

令和5年度第1回放送番組審議会

■開催日時

令和5年9月11日(月) 14:00～16:00

■開催場所

秋田ケーブルテレビ 会議室

■出席委員(6名)

放送番組審議委員会会長 景山 陽一
放送番組審議委員 服部 洋之
時田 修
栗原 エミル
三富 章恵
伊藤 かすみ
(順不同・敬称略)

■事務局出席者

代表取締役社長 末廣 健二
取締役兼コーポレート本部長 飯島 紀之
クリエイティブ本部長 高橋 伸明
クリエイティブ副本部長 田中 康司
クリエイティブ本部マネージャー 斉藤 洋樹
クリエイティブ本部 小林 拓也
TEAM CNA CREATION 矢口 正平
TEAM CNA CREATION 小松 拓実
コーポレート本部 奈良 亜湖

■議事

- ・事務局からの報告事項
- ・自主放送番組についてのご意見

■視聴課題番組

番組名
① 峰より巣立つ。～太平中学校閉校の記録～
② 羅漢 Documentary～Maze～
③ 緊急災害放送ダイジェスト

■放送番組審議委員からのご意見

【①峰より巣立つ。～太平中学校閉校の記録～】

- ・客観的に見て、この番組が昔の太平地区の歴史を知るきっかけになると思った。
- ・秋田市の学校配置の基本方針や生徒数の減少推移を資料でしっかり示していることがドキュメンタリーに厚みをもたせている。
- ・フレームの切り方、インタビューも丁寧で上手だった。
- ・証書を渡すシーンや、校歌斉唱のシーンは感情が揺さぶられた。
- ・子どもたちが撮影したドローンの映像を、本編の中に30秒でもショートver.として見たかった。
- ・同年代の娘を持つ親として、非常に感情移入し保護者のディスカッションについても共感し完成度が高かった。
- ・映像にこめたメッセージを、自己満足で終わらずにこれからも継続的に見てもらえるような方法を探すべき。
- ・閉校と、廃校についての発言と表記の統一がされていないところが気になった。
- ・収録した映像を全員で視聴後、登場人物である生徒に感想を求めるシーンはないほうがよかったのではないかな。

【②羅漢 Documentary～Maze～】

- ・一度上京し秋田に戻ってきたという羅漢さんと同じ境遇のディレクターとのキャッチボールがよかった。
- ・語り、SE、現場ノイズのバランス(MA)を整えたほうがより伝わりやすい。
- ・羅漢さんのセリフの後ろで音楽がかぶっていて、聞き取りづらかった。
- ・ドキュメンタリーは撮る側の思い、撮られる側の心が重要で、2人の関係性なくして創作できないものだった。
- ・女性目線から見ると、ラッパーは好き嫌いが両極端に分かれてしまうため、現在羅漢さんが担当されている秋田ブラウブリッツのテーマ曲を冒頭に流すなどするとより興味がわくのではないかな。
- ・ディレクターの説明がいい意味で初々しく、羅漢さんの人となりや他者が説明しているのが入ってきやすい。

【③緊急災害放送ダイジェスト】

- ・災害時の情報伝達をする職員のプライドを感じる映像であった。
- ・響く言葉で番組中に何度も呼びかけを行っていたところが市民に寄り添っていて素晴らしかった。
- ・災害時の情報が遅すぎるという課題に対し、定点カメラでひたすら映像を流すことは革命的だった。
- ・緊急災害時にはSNSだと正確な情報を自己判断しなければならないが、定点カメラの映像がいかにニーズがあるかを感じた。
- ・CNAを称賛する様々なパーツ(出し方、量)によっては番組が発信したい中心が「災害時のCNAの良さ」といった自己PRのように感じられてしまうため気を付けるべき。